

くまもと工連ニュース No.189

平成23年12月1日(木) (社)熊本県工業連合会事務局発行

TEL 096-285-8131 [E-mail]kenkoren@kenkoren.gr.jp

FAX 096-214-2030 [URL]http://www.kenkoren.gr.jp

(メールでの配信を希望される会員は、事務局までご連絡ください。)

締切迫る!!

熊本大学の学生・教職員の皆様に向けた県内企業ガイダンス 「未来へ翔る」熊本企業フェア2011 出展のご案内

すでにメールではご案内しておりますが、定員に余裕があります。企業をPRする絶好の機会です。今週末が締切となっておりますので、ご希望の方は至急お申込みください。

1. 目的

地域間競争や国際競争の中で熊本県内企業が生き残っていくためには、人材が鍵であり、それが企業力の源泉であります。しかしながら、県内高等教育機関の在籍者に県内企業は十分に認知されているとは言い難く、新卒者に加えU・I・Jターン者の選択肢となりえていない現状にあります。

このような中、県内企業への人材確保につなげるべく、県内企業ガイダンスを熊本大学構内にある工学部百周年記念館にて開催し、熊本大学の学生・教職員に向けた熊本県内企業の紹介と周知を行います。

2. 日程：12月14日(水) 9:00 ~ 19:00、

12月15日(木) 9:00 ~ 13:00 の1.5日間

※設営：12/13(火)13:00~17:00、撤収：12/15(木)13:00~15:00

3. 場所：熊本大学 工学部百周年記念館 1階 多目的会議室

4. 出展企業(ブース)数：15社(1ブースの広さは3メートル×2メートル)

5. 出展費用：¥30,000/1ブース(机、椅子、間仕切り、企業表札、リーフレット代)

6. お問い合わせ先：緒方 Tel: 096-285-8131、E-mail: ogata@kenkoren.gr.jp

蒲島知事あてに施策提言書を提出!!

11月7日(月)熊本県庁知事室に於いて、蒲島知事あてに施策提言書を提出しました。足立会長(熊本ソフトウェア)、櫻井副会長(櫻井精技)、金森幹事長(オジックテクノロジーズ)、池松副幹事長(池松機工)、山下施策提言委員会委員(山下機工)、垂見施策提言副委員長(ネイチャー生活倶楽部)、事務局が出席。足立会長から蒲島知事に提言書を提出、その後、金森幹事長が提言書の主旨を説明しました。

蒲島知事からは、「稼げる県」の実現に向け、いただいた提言を今後の政策に活かしたい」とのコメントをいただきました。

提出した提言書は、次のとおりです。

平成 23 年度施策提言書（抜粋）

東日本大震災の復旧、復興の目処もつかない処に、ユーロ圏の経済不安等による超円高により、我が国の産業は世界的な生産体制の見直しを余儀なくされており、特にモノづくり産業では国外シフトの可能性が高まってきている。熊本でも、米国や中国等への販路開拓の動きの中で「グローバル化での熊本」という認識のもとで積極かつ慎重なビジネス展開とタイムリーなサポート施策が重要。

平成 24 年 4 月より、熊本市は政令指定都市となり、九州新幹線全線開業と併せた相乗的効果は 100 年に 1 度のビッグチャンスと期待され、熊本県と熊本市とは一層の連携を図り、拠点性をより高め、地域経済を発展させていく施策も重要。

グローバル化の中で「選ばれる熊本」とするためには、さらなる研究開発の充実が急務であり、これらの部門も含めた国内外からの新たな企業誘致やこれらの分野に挑戦する地場企業へ総合的な支援が必要。また、モノづくり産業にとって、その生命線ともいえる電力等のエネルギー確保には、あらゆる対策を講じていくことが不可欠であり、さらには創エネルギー及び省エネルギー分野を積極的に取り込んだ本県の強みとするモノづくり産業、エネルギー関連産業への施策の展開が必要。

1 地域における新産業創生への支援について

- (1) 研究開発部門も含む企業誘致、そして「研究開発に参画できる」地場企業の育成支援など、新たな分野・業務に取り組む県内企業への強力な支援をいただきたい。
- (2) 今年度オープンした有機薄膜技術支援センターの有効な活用については、本年度指定を受けた地域産業イノベーション戦略プログラムに参加しやすいような施策、そして、KUMADAI マグネシウム合金や既存マグネシウム商品化のプロジェクト等では、量産化・商品化に向けてのより一層の支援が必要。
- (3) 県内の企業情報を、本県の産業技術センターが整備を進めているデータベースに「一体化」を図り、企業誘致やビジネスマッチングといった県の施策との連動により、様々な産業支援策が一層使いやすく有効となるような体制づくりが急務。
- (4) 県内に新たなビジネスを生み出すためには、地場企業の営業機能をサポートしているくまもとテクノ産業財団の能力をより強化するとともに、今年度開設される上海事務所においても、ビジネス取引に繋がるような方策を強力に進めていただき、また、米国はじめ海外とのビジネスネットワークの強化についても支援をいただきたい。

2 熊本における人材の確保と育成について

- (1) 企業が生き残っていくためには、人材が鍵であり、人材の確保と育成は企業力の源泉。しかしながら、地場企業の新卒者の雇い入れはうまくいっているとは言い難く、若者の地元離れの現状を変えていくためには、熊本に住み、熊本で働き、熊本で子育てをするうえで、将来に希望が持てるような生活や雇用の環境整備が必要。
- (2) 具体的には、人材誘致という視点により、U・I・J ターンに加速がつくような新たな制度の創設が必要。例えば、人材誘致の目標数値を設定し、達成するためのインセンティブの創設、住宅優遇制度、住民税等の一定期間の優遇制度、U ターン奨励金の創設等のインセンティブ施策等が考えられる。また、即戦力となる U・I・J ターンの人材について、アド

バイザー制度のみに止まらず、雇用環境の整備に繋がる積極的な人材誘致制度等の創設の実現を望みます。

(3) 今後、グローバル化の流れの中で、地域をあげて留学生への取り組みは不可欠。留学生関連の情報収集の強化を図り、新たな地域活性化への施策が必要。

3 魅力ある“くまもとづくり”について

(1) 社会経済を支える、情報、水、エネルギーなどの社会インフラ関連産業は、全ての産業との接点に関する新たな研究開発支援等の振興策が求められます。

(2) 社会経済の発展のためには、交通網の整備は不可欠であり、道路網の整備は勿論のこと、熊本からアジアへ直行できる新たな航空路線の開設や航空貨物便の充実、そして、エアポート・シーポートの一層の整備に、今以上に力を注いでいただきたい。

(3) 少子高齢化社会を迎え、人々は防災防犯をはじめ安心安全に暮らせる社会を求めており、ハード・ソフト両面にわたっての社会システム整備は大きな課題であり、産業育成・振興の面からも重要であります。このことが、豊かな自然・歴史・文化に恵まれた熊本で仕事をしたい（続けたい）というさらなる動機づけに繋がっていくと考えます。これらの社会システム整備に思い切った施策の展開を望みます。

青年部（仮称）が発足しました！！

11月24日（木）、26名が参加し、青年部の発足会を開催しました。次代を担う若手経営者等には、グローバル社会の実態や熊本が持つあらゆる面でのポテンシャルの検証等について、早い段階での把握、経験が必要であり、このことが熊本の地域力を高める大きな原動力となるものと確信し、青年部発足の運びとなりました。

本年度の活動は、「グローバル化」「企業交流」「問題解決」をキーワードとし、具体的には、次回の会議で決めることになりました。また会の名称も、1人1案考え、投票を行います。

なお、役員には次の方が選出されました。（敬称略）

会 長：大隈（オオクマ電子）

副会長：島津（シマヅテック）、丸山（丸山ステンレス工業）

幹事長：松島（マツシマ）

幹 事：山下（サンワハイテック）、池田（天草池田電機）、矢治（化血研）、

前田（熊本利水工業）、松永（ヤマハ熊本プロダクツ）

発足会の出席企業は、次のとおりです。

アイワ／天草池田電機／イケダ科学／インターネッツ／エネーエスコーポレーション／オオクマ電子／岡村鉄工所／オムロン阿蘇／化血研／熊本ソフトウェア／熊本利水工業／サンワハイテック／シマヅテック／日本ビル管理／ビッグバイオ／マツシマ／丸山ステンレス工業／宮本電機／ヤマハ熊本プロダクツ／ユー・アイ技研

次回は、1月19日に開催します。青年部への加入を希望される方は、事務局 荒川までご連絡ください。